

7. 施工関係

1) 拡管機(ナイスジョイント専用の拡管機です)

警告: ナイスジョイント以外のメカニカル継手に使用すると不具合が発生しますのでご注意ください



※リースのみ対応です

※リースのみ対応です

NE3型(13~25Su)

NE5型(13~60Su)



※NE3型後継機種です

NE300型(13~25Su)



NE4型(13~60Su)



※NE5型後継機種です(カウンター付)

NE500型(13~60Su)



※拡管工具が2サイズ取付可能です

NE5W型(13~60Su)



※F式フランジ施工時は別途F式ヨークが必要です

NE7型(75~100Su)

2) ナイスレンチ(50・60Su専用)

袋ナット本締め作業効率アップのため、
専用締め付け工具(ラチェットレンチ)を製作しました。
(長さは600L)



3)パイプの切断と取り取り

○バンドソーなどでパイプを必要寸法に対し直角に切断してください。

●パイプカッターは内径が小さくなるので使用しないでください。

●斜め・段差切りにならないよう注意してください。



ステンレス鋼鋼管用切断機

マンティス60Su

型式:XB60Su

(13~60Su)

○面取機、ヤスリ、リーマを使用して内面と外面の返りをきれいに取り除いてください。

●取り取りが不十分な場合、ゴムパッキン又は拡張ゴムを損傷し拡張不足等により漏れの原因となります。



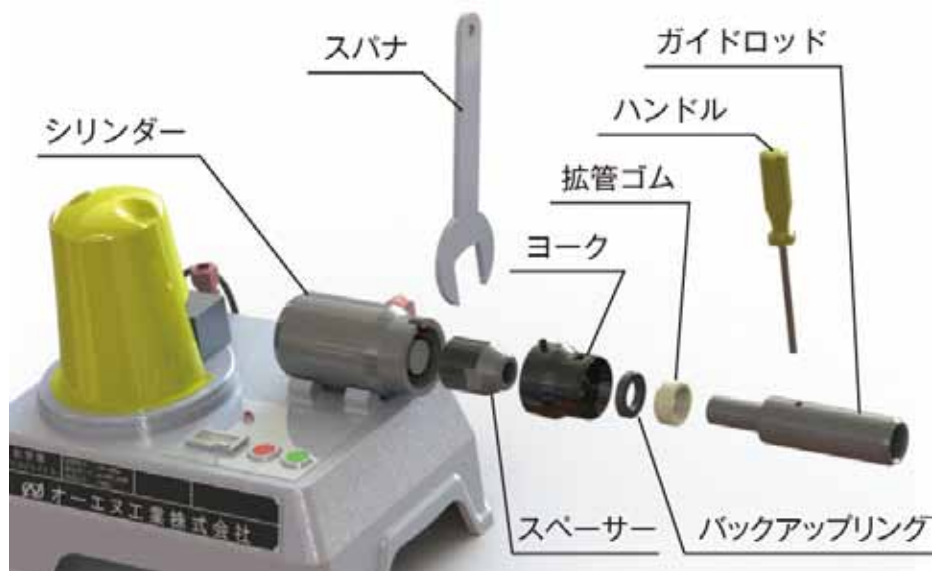
ステンレス鋼鋼管用面取機

型式:SU60P



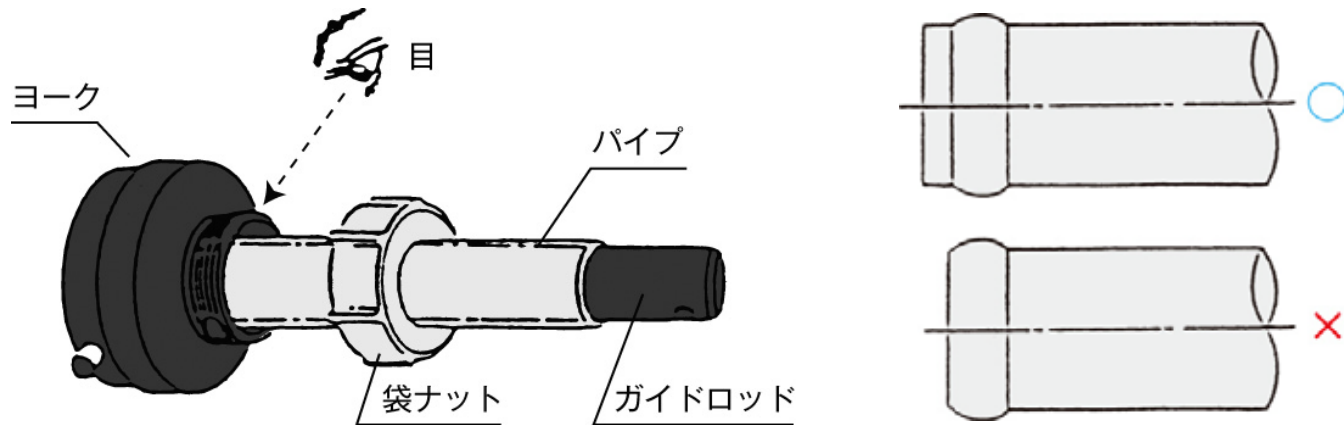
4) アタッチメントのセット

- アタッチメントをシリンダーへ確実にセットしてください。
- スペーサーは付属スパナで確実に締め付けます。
- ヨークはシリンダーの切り欠きにピンを合わせます。
- ガイドロッドに拡管ゴム・バックアップリングを装着し付属ハンドルで確実に締め付けてください。
(拡管ゴムはガイドロッドとバックアップリングに挟んだ状態で装着。)



5) 袋ナットとパイプのセット

- 使用する継手の袋ナットを手締めでヨークへ奥までねじ込みます。
- パイプをガイドロッドに挿入し確認穴でヨークに密着したことを確認してください。
- 袋ナットの手締め不足は拡管不足となるので注意してください。
- パイプの差し込み不足は配管の曲がりや漏れの原因となります。



6) 拡管作業

○作動スイッチを押してください。(下記、型式毎の作業に従ってください。)

【NE300型】

起動スイッチを作動し保持してください。
オートリターンにて拡管完了です。



【NE3型】

カチカチと音がして2～3秒レバーを保持してください。拡管が完了していますのでリリースレバーを押してください。



【NE4型】

昇圧音が変わり、油圧ホースが張ってから
2～3秒スイッチを保持してください。



【NE500型】

指を離してください。自動で昇圧（拡管）、
拡管完了後ガイドロッドが復帰します。



【NE5型】

ランプとブザーが作動して2～3秒スイッチを
保持してください。



【NE5W型】

ランプとブザーが作動して2～3秒スイッチを
保持してください。

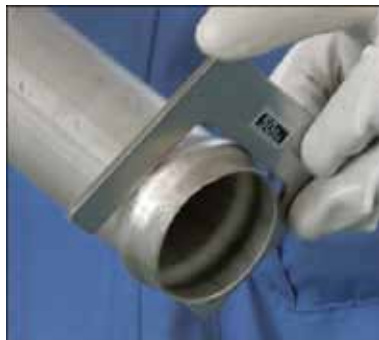


○パイプの拡管が終了したら袋ナットをパイプレンチなどで外してください。
（拡管パイプ取り外しの際に外れにくい場合はパイプを軽くたたいて取り外して
ください。）

●袋ナットは複数回使用しないでください。

7) 拡管部の測定

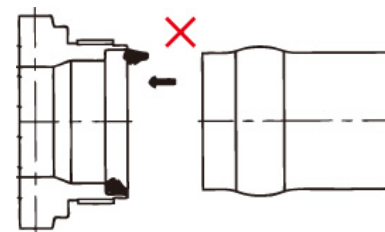
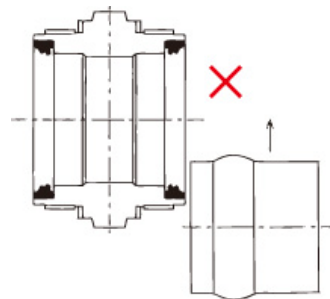
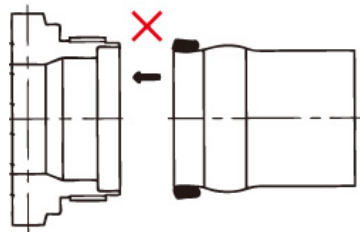
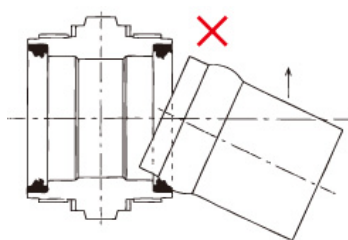
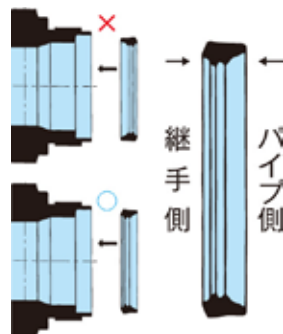
- 付属の限界ゲージで拡管部の山が止まることを確認してください。
(拡管部の測定はパイプのビード部以外で行ってください。)



- 確認はアタッチメント交換時又は拡管50回毎に1回程度実施してください。
(NE500型は拡管回数カウンターの表示を測定目安としてください。
アタッチメントまたは拡管ゴム交換時には拡管回数カウンターをリセットしてください。)
- 拡管ゴムは消耗品です。
(拡管ゴムの交換目安は使用するサイズや環境により多少異なります。)
- 止まりで通過するパイプは漏れの原因となるので使用しないでください。

8) 継手の確認

- 継手本体にゴムパッキンが入っているか確認してください。
万が一交換する時はゴムパッキンの向きに注意してください。
- パイプを継手に挿入する際には継手に対してまっすぐ挿入してください。
- ゴムパッキンを逆向きにセットしないでください。
- パイプ挿入時にゴムパッキンが噛み込まないように注意してください。



9) 袋ナットの締め込み

○袋ナットを継手端面と袋ナットのつばが密着し、それ以上締まらなくなるまで締め付けてください。この時皿ワッシャが立ち上がります。

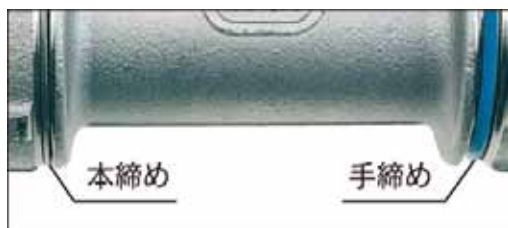
トルク管理は不要です。

○ナイスジョイントの角度を調整する場合は、本締めの後に行ってください。

- 袋ナットの締め込み不足は漏れの原因となります。
- 不十分な締め込みでパイプを回転させるとゴムパッキンがねじれます。
- 50・60Suについてはナイスジョイント専門締め付け工具(ナイスレンチ)もご用意しております。

【使用するパイプレンチの目安】

13・20Su 250mm以上 25・30・40Su 450mm以上 50・60Su 600mm以上



【ナイスレンチについて(50・60Su)】

袋ナットにぴったりフィットし2点のクローによるラチェット機構で締め込みができる専用締め付け工具をご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。

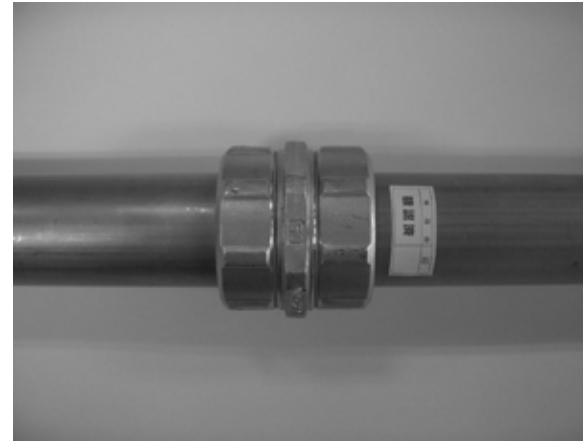


10) 増締め(本締め)確認の事例

確認済シール例1



確認済シール例2



マーキング例



確認済シール

年	月	日	印
確認済			

増締め確認票シール

ナイスジョイント			
増締め確認票			
施工会社			
施工年月日	年	月	日
担当者名			確認者印
班名	班		
作業者名			
オーエヌ工業株式会社			

確認済シール及び増締め確認票シールのご用命は弊社担当へご連絡ください。

拡管式管継手(ナイスジョイント) 呼び径:75~100Su

拡管機 NE7型

継手写真



フランジ (NJLNF)	ソケット用フランジ (NJLSF)
回り止め(無)	回り止め(有)
	 回り止め(有)



拡管式管継手(ナイスジョイント)呼び径:75~100Su作業手順写真 No. 1/5



①パイプ切断寸法表によりバンドソー等を用いパイプを軸心に直角に切断する。



②面取機、ヤスリ、リーマ等で内、外面共きれいにバリを除去する。



③フランジをヨークに挿入し、フランジ押さえでフランジを固定する。



④付属のコンビネーションスパナで六角ナットをしっかりと締め付ける。



⑤パイプをヨークの奥に突き当たるまで十分差し込む。(注)パイプスタンド等の利用



⑥緑色のスイッチ「拡管」を押す。拡管が完了し2秒間保持した後モーターが停止しガイドロッドが復帰します。「非常停止」は緊急停止時のみ使用します。



拡管式管継手(ナイスジョイント)呼び径:75~100Su作業手順写真 No. 2/5



⑦ 継手本体にゴムパッキンが付いていることを確認して、拡管したパイプを取り付ける。



⑧ ※ゴムパッキンを交換する場合。ゴムパッキン端面の丸い突起のある側を手前にして継手本体に装着する。



⑨ 付属の六角ボルト・六角ナットを取り付ける。



⑩ 締め付けは対角線上にフランジ面が本体に密着するまで締め付けてください。

拡管式管継手(ナイスジョイント)呼び径:75~100Su作業手順写真 No. 3/5「貫通フランジ」



①貫通フランジを貫通フランジAと貫通フランジBに分解する。



②貫通フランジBをヨークに挿入し、フランジ押さえで固定する。六角ナットは付属のコンビネーションスパナでしっかりと締付けてから拡管してください。



③貫通フランジB側でスリーブを通してください。



④通した貫通フランジBに貫通フランジAを組込む。



⑤貫通フランジAと貫通フランジBの合印を合わせ組み込み、付属の六角ボルトをスパナ等でしっかりと締め付ける。

壁貫通にご使用ください

最小穴径(mm)

75Su 103

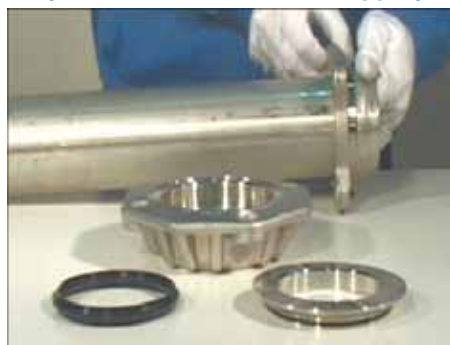
80Su 116

100Su 147

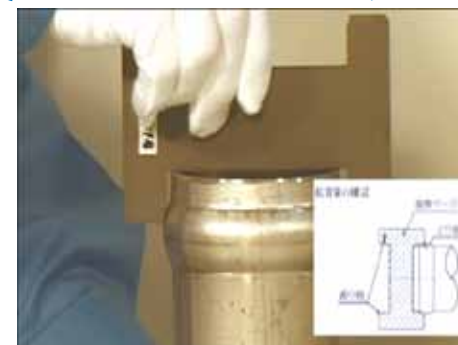
拡管式管継手(ナイスジョイント)呼び径:75~100Su作業手順写真 No. 4/5「F式フランジ」



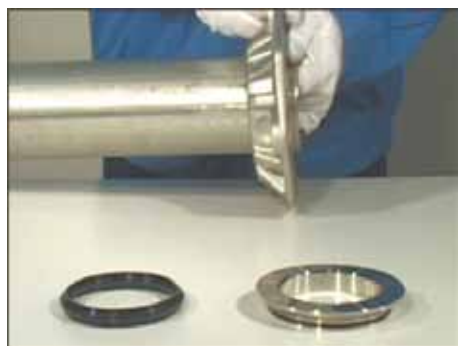
① F式フランジの構成部品を取り外す。



② 片側のみF式フランジを使用する場合は、作業手順①~⑥の通り拡管した後、フランジを取り外す。
※ F式フランジを用い両側拡管する場合は、別途F式ヨークを御用意しております。



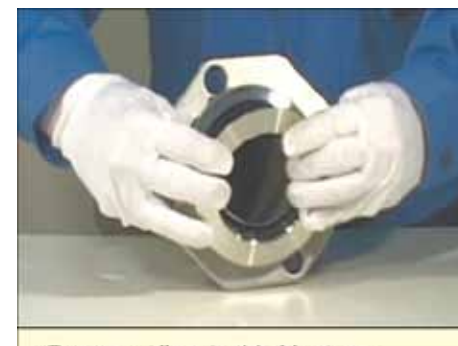
③ 拡管量の確認:限界ゲージを使用し、パイプ端面にゲージ切欠部分を押しつけ、通り側・止り側を確認する。



④ F式フランジを②で拡管したパイプに装着する。



⑤ F式フランジにゴムパッキンを装着する。
ゴムパッキン端面の丸い突起のある側を奥側にして装着する。



⑥ リングBを装着する。
(リングBは装着時の倒れ防止のために“O”リングを入れています。)



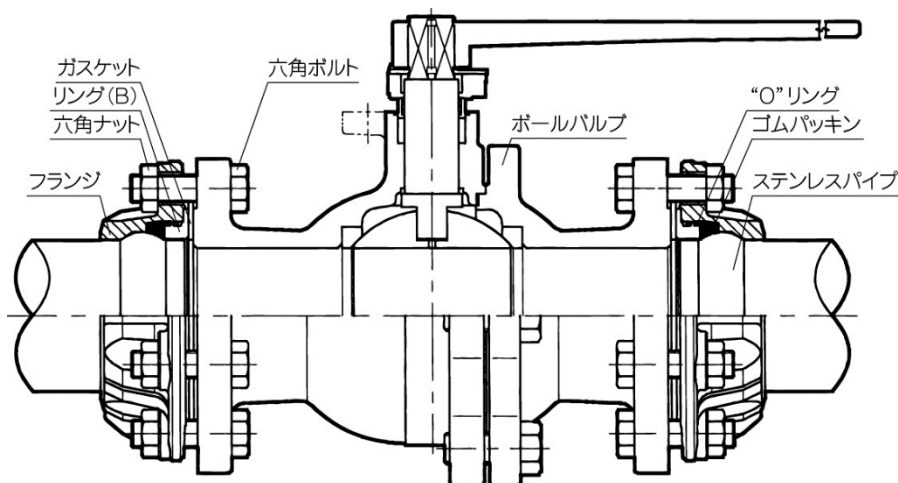


⑦ JIS10Kのフランジに
F式フランジを取り付け
る。



⑧ JIS10KフランジとF式
フランジにテフロン包み
ガスケットを挿入しボルト
を締め込みする。フラン
ジガスケットは金属フラン
ジ用を使用して下さい。

F式フランジ組み立て図



ウエハー式のバタ弁も取り付けできます